

INFORMATION

■ 症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

症例検討会名・開催日	時間・場所
■ 乳腺テクニカルカンファレンス 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■ 呼吸器カンファレンス 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■ 消化管カンファレンス 毎月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■ 周産期症例検討会 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。
 検討ご希望の症例がございましたらぜひご参加下さい。皆さまの多数のご参加をお待ちしております。
 参加申し込みは不要です。(医療連携室 TEL：093-533-8660〈直通〉)

■ 地域医療従事者研修会のご案内

日程	テーマ	講師
12月13日(木)	「臨床で活用できる?心理療法と不眠への対応」 ・不眠症の治療について ・傷ついたところへの寄り添い方を考える	心療内科主任部長 福留 克行 臨床心理士 兵頭 憲二
平成31年 1月24日(木)	「肝臓がんの最新治療」 ・肝臓がんの内科治療 ・肝臓がんの外科治療	内科主任部長 重松 宏尚 外科部長 阿部 祐治
2月28日(木)	「糖尿病の最新治療と重症化予防について」 「高齢者糖尿病患者に対する自己注射支援の実際について」	糖尿病内科主任部長 足立 雅広 糖尿病看護認定看護師 木村 久美

■ 市民公開講座のご案内

テーマ 心臓のちよつとタメになる話
 診療科 循環器内科・心臓血管外科
 場所 北九州市立商工貿易会館
 2階多目的ホール
 日時 12月1日(土)
 受付開始：13時30分～
 講演：14時～16時
 参加費 無料(事前申込不要)

【問い合わせ先】
 事務局 管理課
 TEL.093-541-1831(内線3104)

▶場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂 *事前の申し込みは必要ありません。
 ▶時 間：18時30分～(1時間～1時間30分程度) 【問い合わせ先】医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)

輪



北九州市立医療センターニュース「輪」
 第71号 2018年11月9日発行

<基本理念>

わたしたちは公共的使命を自覚し
 心のこもった最高最良の医療を提供します

編集長：尼田 覚

©2018 北九州市立医療センター /
 本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為は
 ご遠慮ください。

編集 そろそろ紅葉も盛んになってきて、過ごしやすい気候になったのではないで
 後記 しょうか。この時期は街中でシャツ一枚の人もいれば縮入り外套の人もいて、
 自分はどのような服装で出かけるべきかいつも悩んでしまいます。
 今号は当院の消化器がんの診療を中心に案内させていただきました。今後とも患
 者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。

(尼田)

〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目1番1号 北九州市立医療センター
 TEL.093-541-1831(代表) FAX.093-533-8693
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>

広報委員会「輪」編集委員

尼田 覚 重松宏尚 小園真吾 大津博恵 杉本優子 森崎恵美子
 高見将彦 小野達也 木村祥子 佐藤美登里 天野健司 高橋未菜美



HP：QRコード



FB：QRコード

輪



北九州市立医療センター

CONTENTS

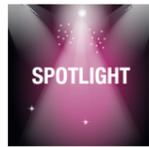
- 01 スポットライト／公益財団法人 日本医療機能評価機構「病院機能評価3rdG：Ver.1.1の認定について」
- 03 院内紹介／消化器内科・外科(消化器外科)
- 05 トピックス／2018年度 活動報告
- 06 人物クローズアップ／剣道、青年団を通しての地域活動
- 07 認定看護師さんをご紹介します!
- 08 看護の広場／消化器内科外来・内視鏡室
- 09 登録医のご紹介
- 10 医療連携室だより

INFORMATION

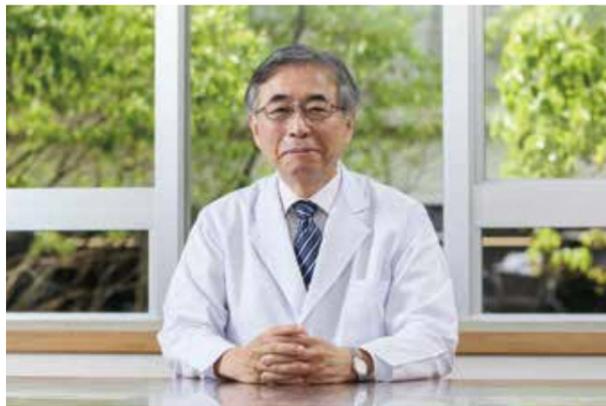
- 症例検討会のご案内
- 地域医療従事者研修会のご案内
- 市民公開講座のご案内



[表紙写真について]
2019年にラグビーウェールズ代表が北九州市でキャンプを行うことを記念し、北九州市民との交流プログラムを実施しています。今回はその一環として、当院の患者さんの慰問およびトークショーを開催しました。最初はウェールズの選手たちの大きな体格に圧倒されたものの、慰問やトークショー・質疑応答の時間を通じて選手の皆さんと会話はずみ、最後には全員笑顔での記念撮影となりました。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 「病院機能評価3rdG：Ver.1.1の認定について」



北九州市立医療センター
院長 中野 徹

当院は、去る2018年2月22日～23日、公益財団法人 日本医療機能評価機構(以下「評価機構」という。)による病院機能評価3rdG：Ver.1.1を受審しました。

当院は地域医療支援病院の承認を受けており、病院の質改善のためには受審しておくべきであるという思いで受審を決定しました。当院は、これまで三度認定を受けていましたが、諸般の事情で2016年に更新せず、一年ブランクを空けての受審となりました。

院内でキックオフをして、いざ準備を始めようとしたのですが、なかなか思うように進みません。

前回受審時に主に担当していた幹部や関係者が退職・異動していたことに加え、3rdGから新たに導入された「ケアプロセス調査」に関する情報不足など、何から手を付ければよいのかわかりませんでした。

とはいえ、取り急ぎ、院内で受審準備委員会を立ち上げました。関係者で評価機構の解説集を読み込み、院内全体で見直し・改善活動をアナウンスしました。しかしながら、どの部署も日頃の業務が忙しいですし、今振り返ると、アナウンスの方法もあまりよくなかったのかもしれない。あまり実感のないまま月日が流れていきました。そんな中、現場からは「本当に受審しないといけないのか」「準備期間が短いのでは」といった意見も出されました。

いよいよ切羽詰まって、他病院の視察、専門コンサルティングの招聘、各スタッフの横の繋がりによる情報収集を重ね、しなければならぬことが明確になってきました。

それでも、受審2ヵ月前の2017年12月頃までは、まだまだ院内の情報伝達、意識の共有が十分ではありませんでした。受審準備委員会側の対応の遅れと言われても仕方ありません。

これを改善するため、年明けの2018年1月から、「受審準備委員会委員長ニュース」の発行を始めました。新たな情報発信はこのニュースを必ず活用することとし、全部署への配

布・電子カルテ端末の掲示板へのアップを行いました。受審までの危機感とともに、作業スピードがアップし、活発な意見交換、改善活動が実現されてきました。段々と、病院が一丸となり、一つの目標に向かっていくのを感じました。

今回、もっとも苦慮したのが「ケアプロセス調査」への対応でした。どのような症例を選ぶべきなのか、どうプレゼンテーションすればよいのかなどすべて手探り状態でしたが、院内で模擬審査を3回行い、何とかプレゼンテーションできる状態までこぎつけることができました。

訪問審査当日は、病院概要説明、1・4領域面接、ケアプロセス調査、部署別訪問、講評、と緊張の連続でしたが、来てくださったサーベイヤの皆さまに、当院の特色や、多職種協働・チーム医療を十分アピールできたのではないのでしょうか。

審査結果については、紆余曲折ありましたが、2018年8月3日に無事認定を受けることができました。自己評価を上回る評価結果となった項目が多くうれしい限りです。

評価機構の報告書を拝見しますと、良い点も悪い点も、外部の目でさまざまな指摘をいただいていると感じました。さらなる質改善の取り組みは不可欠で、これからも不断の努力を続けてまいります。私たちが確信していることが一つあります。今回の受審が、北九州市立医療センターにとって間違いなく大きくプラスになったということです。これからも、地域の医療機関の皆さまと協力して、市民の方々に最高最良の医療を提供してまいります。



▶認定までの歩み

- ・2017年 5月 キックオフ
- ・2017年 6月 第1回受審準備委員会の開催
 - ・審査項目別の責任者の決定
 - ・自己評価調査票の作成
 ～2017年内までに4回開催
- ・2017年11月 訪問病棟決定
- ・2018年 1～2月 ケアプロセス模擬審査(計3回)の実施
- ・2018年 2月 訪問審査
- ・2018年 8月 認定通知

▶評価89項目の審査結果

評価	自己評価	審査結果	比較
S	0	2	+2
A	44	65	+21
B	45	22	▲23

※審査結果の詳細は、日本医療機能評価機構のホームページに公開されています。「日本医療機能評価機構 認定病院検索」で検索ください。

消化器内科

Gastroenterology



消化器内科 主任部長 水谷 孝弘



2018年4月より秋穂裕唯医師が統括部長に昇任し、主任部長を拝命いたしました水谷孝弘と申します。消化器内科の現状をご紹介します。

現在当科はスタッフ6名、レジデント5名で外来診療、病棟業務、内視鏡診療を行っています。2017年の外来患者数は1日平均66.8人、紹介率91.8%、入院患者数は1日平均38.5人でした。

私が主に専門としております内視鏡診療に関するトピックスをご紹介します。まず一点目ですが、2018年度よりVPPP(症例単価払い賃貸借契約、いわゆるリース制度)を導入し、内視鏡機器を一新しました(写真1)。



これまでは、なかなか新しい内視鏡を購入する予算が下りずに老朽化した内視鏡で診断・治療を行っており、正直あまり満足いく画像が得られないことがありました。VPP導入により、上部・下部ともほぼ全例で拡大機能付きの最新内視鏡で検査を行うことができるようになり、診断精度が飛躍的に向上しました。



消化器内科スタッフ 写真上：左から竹島、多田、横山、糸永、向坂、佛坂／写真下：左から田中、麻生、秋穂、水谷、植田

次に内視鏡治療に関するトピックスです。当院では2001年、諸先輩方が近隣施設に先駆けて、消化管腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を導入しました。現在では食道、胃、大腸あわせて年間300例程度ESDを行っており、九州でもトップクラスの症例数を誇っています。2017年4月に私が赴任してから、より安全で効率的なESDを行うために、把持型鉗子であるClutch Cutterを導入しました(写真2)。



※これは、絶縁性を保証するものではありません。

このデバイスは回転機能を有するハサミ型鉗子であり、目標部位を把持・牽引し通電切離するため穿孔の危険が極めて低く、また止血能力が非常に高いのが特長です。2017年度はほとんどの症例をこのClutch Cutterで行い、満足のいく治療成績を示しています。

また植田部長を中心とした胆膵内視鏡診断・治療、麻生・植田部長を中心とした超音波内視鏡検査・穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)などにも力を入れています。

秋穂統括部長を中心に難治性炎症性腸疾患に対する治療も多数行っており、切除不能進行がんの化学療法も積極的に進めています。お困りの症例がございましたら、何でもご紹介ください。

これからも消化器内科をよろしくお願いいたします。

外科 (消化器外科)

Digestive surgery



外科 (消化器外科) 主任部長 末原 伸泰

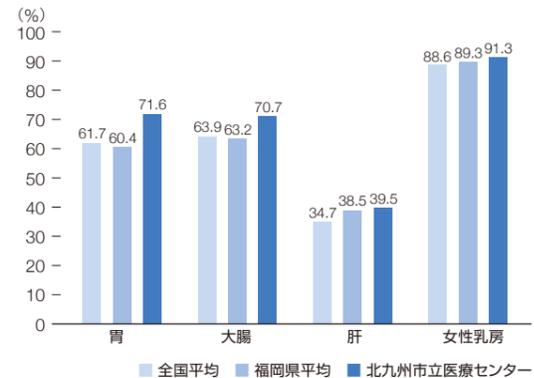


地域がん診療連携拠点病院である当院外科は悪性腫瘍の外科治療が主体で、2017年の年間手術数1,243例のうち悪性腫瘍手術が約7割(835例)を占めていました。その内訳は、乳がん456例、食道がん24例、胃がん101例、大腸・直腸がん171例、肝がん51例、胆・膵がん32例でした。

外科診療では、①患者さんの安全性、②がんの根治性、③整容性・機能性を重視した内視鏡外科手術の提供、④患者さんの心のケアを念頭に置いて手術を行っています。

がんの根治性に関しては、2018年9月12日に国立がん研究センターから乳がん・胃がん・大腸がん・肺がん・肝臓がんの主要5部位の5年生存率が発表されましたが、当院ではいずれも全国平均、福岡県平均よりも良好な成績でした(図1)。

図1：院内がん登録5年生存率(2008-9年生存率集計)



内視鏡外科手術では、3Dおよび4Kなどの先進的な内視鏡システムを導入することで(図2)、より繊細で精緻な手術を実現できるようになりました。

当院では外科(消化器外科)は、上部消化管、下部消化管、肝・胆・膵と3グループで診療を行っています。今回は、上部消化管グループの取り組みについてご紹介いたします。

図2：3D内視鏡システム



図2：4K内視鏡システム

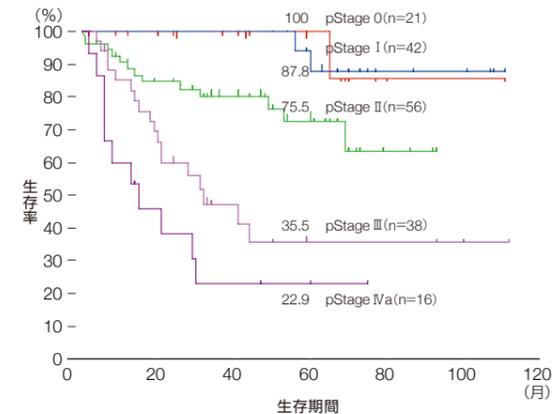


●食道がん

当院は2013年に食道外科専門医認定施設に認定され、末原・渡部の食道外科専門医2名(全国126名、福岡16名)を中心に、年間約30例程度の食道がん手術を行っています。2007年から手術侵襲の軽減を目的に完全鏡視下手術を導入し、これを全例に行っています。また、以前は放射線化学療法しか治療選択肢がなかった胃切除後の食道がん症例に対しても、心臓外科と合同して手術を行うことで血管吻合を伴う小腸再建が可能となり、手術適応が拡大しました。

食道切除再建術の全国的な手術死亡率は3.0%ですが、当院では最近5年間で0.7%(1/148)と安全な手術が行われ、術後5年生存率も良好な成績です(図3)。

図3：食道扁平上皮がんの5年生存率



●胃がん

胃がん手術は、胃がんの発生部位と進行度に応じて、胃全摘術、幽門側胃切除術、幽門保存胃切除術、噴門側胃切除術の4種類の術式が選択されます。当院ではすべての術式を完全腹腔鏡下で行うことが可能です。胃がんガイドラインに準じて、基本的には早期がんに対しては腹腔鏡下手術、進行がんに対しては開腹手術を行っていますが、リンパ節郭清手技の進歩に伴い、進行がんに対しても腹腔鏡下手術の適応を徐々に拡大しています。早期がんに対してはがんの根治性を損なうことなく迷走神経温存を標準術式とし、噴門側胃切除術や幽門保存胃切除術を積極的に導入して、術後のQoL向上を目指しています。進行胃がんに対しては腫瘍内科と連携して術後補助化学療法を積極的に行うことで、予後の改善を目指しています。

以上簡単ですが、今後も患者さんに優しい外科医療、すなわち安全で質の高い治療を推進して参りますので、引き続きご支援の程よろしくお願いいたします。

2018年度 活動報告

8/1 水 ウェールズ慰問

ウェールズ(Wales)[ラグビーの国際大会「スーパーラグビー」において活躍中]の選手たちが病棟慰問&トークショーを行いました。



10/11 木 なかよし保育所運動会

院内保育所・なかよし保育所で運動会を実施しました。園児たちは力いっぱい、笑顔いっぱい競技に励み、付近には楽しげな声が響いていました。



9/3 月 タオル帽子寄贈

抗がん剤治療で髪を失った患者を支援するため、ボランティアでタオル帽子を作成している「すみれ会(岩崎けい子代表)」様より、タオル帽子60個を寄贈いただきました。当院患者さんへお渡しし、大変喜んでいただきました。ありがとうございました。



9/25 火 がん患者サロン開催

患者さんに心の安らぎを持っていただくとともに、さまざまな情報提供の場として毎月1回開催している「がん患者サロン」。今回、初めての試みとして、「脱毛時のおしゃれ(ウイッグ)」(がん化学療法認定看護師近藤佳子)というテーマで、ウイッグのメーカーさんに参加していただいて、実物を展示していただきました。



CLOSE UP!

人物

クロージアップ 剣道、青年団を通しての地域活動

高山 由磨
医療連携室 社会福祉士



もともと私が剣道を始めた理由は単純でした。今や国民的アニメでもあるワンピースがテレビ放送開始になり、その中に登場するゾロという剣士が両手に刀を持ち、もう1刀を口に銜え、3刀流で戦うという姿に憧れたからです。近所に道場があったということもあり、剣道を習うことになりました。稽古初日、私の期待は絶望に変わります。そこには頭、両手、お腹に防具をつけて稽古を行っている光景がありました。「これでは刀は口に銜えることができない…」その瞬間私は3刀流ができ



剣道の練習風景

ないということを知りました。しかし、入ってしまったため後には引けず、続けることになりました。すると次第に両者1刀しか持っていないのに勝負がつくことの面白さに魅せられ、今まで続けています。現在は4段を取得し、小中学生への指導や青少年健全育成を目的として開かれている地域の大会へ審判員やその他役員として運営に携わる活動をしています。

もう1つの地域活動として青年団に所属しています。現在青年団には27歳~36歳の男女9人が在籍して



試合風景

青年団による太鼓の実演風景



盆踊り会場の様子

います。活動はお正月の餅つきや草刈りなどの清掃、敬老会の受付から伝統的な神幸祭や夏越し祭り、盆踊りの運営など幅広くしています。特に力を入れて活動を行っているのは盆踊りで、区の慰霊祭や校区の夏祭り、依頼があった初盆の個人宅にて口説き、太鼓、踊りを行っています。口説きにはさまざまな種類があり、当団ではロッパウ、サヨサヨ、ハイヨナ、チョイナ、アラワッサという5種類をしており、太鼓や踊りもそれぞれに合わせて行います。1か月前から練習を行

い、本番もほとんど休むことなく口説き、太鼓、踊りを交代でするためきついです。終わった後にはいろんな方に「ありがとう」と声をかけていただけるので頑張っています。続けていこうと思います。

活動をしていく中で良いことは老若男女多くの方と交流ができることです。高齢化や人員の減少で道場や大会、伝統の盆踊りや祭りなどの継承が厳しくはなっていますが少しでも守っていけるようこれからも活動を続けていこうと思います。

PROFILE

心地よい入院生活を目指して



認知症看護認定看護師

守田 弥生

認知症患者さんは入院による環境の変化、身体的治療、馴染みのないスタッフとの関わりにより混乱を生じやすくなります。その中でも認知症患者さんの豊かな感受性は維持されており、できる能力も残されています。

認知症患者さんが身体的治療を受ける中でも可能な限り心地よく安全に入院生活を送ることができるように尊厳を守り、認知症患者さんとそのご家族が望む地域に安心して戻れるように支援をしていきたいと思っています。

現在活動の一環として病棟では、認知症患者さんの生活状況、価値観、好み、個別的背景などを総合的に踏まえたカンファレンスを行い、統一した認知症のケアの実践に繋がるように情報共有を行っています。

また月1回ではありますがレクリエーションなどを取り入れた病棟内デイケアを行い、見当識やできる能力に働きかけることで認知症患者さんの豊かな表情を感じることができ、スタッフの認知症への意識の向上を感じています。認知症患者さんの思いに寄り添い、できる能力を見極め、適切な言葉や行動に表せない思いを代弁できる存在でありたいと思っています。

PROFILE

病院から在宅医療へ繋げていくために



皮膚・排泄ケア認定看護師
(担当係長)

辰島 美和

2010年に皮膚・排泄ケア認定看護師を取得し、翌年から褥瘡管理専従看護師として褥瘡対策、創傷・ストーマ・失禁ケアやチーム連携等を行ってきました。ここ数年の当院における褥瘡は、院内発生は減少していますが入院時褥瘡保有者(持ち込み褥瘡)は増加傾向となっています。しかし急性期病院からの「持ち帰り褥瘡」も散見されるようになり、褥瘡は在宅と病院を循環している状況と推察されます。急性期病院としての役割を担いつつ病院・在宅医療、介護の連携推進に取り組む責務を感じています。今後も院内の活動で途切れるのではなく、褥瘡(創傷)・ストーマ・失禁ケアを施設・在宅へ繋げていくために、転院先や訪問看護師からの相談を受けた場合には具体的に対応できるように取り組みたいと考えています。その「褥瘡地域連携」の一步となりうる、連携病院への褥瘡ラウンド(月1回)を行うことが実現しました。「褥瘡を治したい」という強い思いを共有できるスタッフが多く、ラウンド以外で研修会を開催するなど企画しています。また今後は、転院先施設や在宅へ訪問し患者さん、ご家族のニーズに沿った支援を継続していきたいと考えています。

専門的知識と技術をもつ認定看護師は地域のリソースとしての役割を果たすことができますと考えています。当院には13分野20名の認定看護師がおり、認定看護師主催研修(外部も参加可)や出前講演を行っていますので、気軽にご参加(講演依頼)ください。

研修・講演に関する問い合わせ先: TEL.093-541-1831(看護管理室)

安心・安全な看護を目指して



消化器内科外来・内視鏡室 看護師長 桐原 貴美子

近年の消化器内科の検査・治療は検査機器の発達や診断法・治療方法の進化に伴い個別化、複雑化しています。消化器内科外来・内視鏡室のスタッフは、外来に看護師4名・クラーク2名、内視鏡室に看護師8名・クラーク1名・内視鏡洗浄員2名と計17名です。

4名の看護師が消化器内視鏡技師免許を取得しており、介助や内視鏡の管理など専門的視点とスキルで検査介助・内視鏡全般の機器管理等を行い、内視鏡検査の最新情報や看護について研修会などに参加し研鑽しております。

2016年6月に消化器内科外来と内視鏡室が隣接され、患者情報を外来スタッフと内視鏡室スタッフが共有しやすい環境となり、診察・検査に要する時間が短縮されました。

不安を抱えて受診する患者さんに安心・安全に検査・治療を受けていただくために限られた時間の中で要望や相談の対応は迅速丁寧に行うことを心掛けています。

外来から入院・退院に向けての支援をがん関連の認定看護師・医療連携室・入退院センターのスタッフと連携し行っています。また長高齢社会に伴い、独居あるいは老老看護のため、お一人で受診されることも増加していますので高齢な患者さんへの支援を行っています。

例えば高齢な患者さんが大腸内視鏡検査を受けられる場合、外来看護師が患者さんのADL・認知症の有無・家族背景などの情報を収集し、自宅で大腸洗浄剤服用がご自身でできない、あるいは家族の協力を得られない場合は、内視鏡室で服用し安全に検査が受けられるよう配慮しています。

今後もスタッフ一同で笑顔とチームワークを大切に患者さんにご家族に優しい看護サービスを提供できるように努力してまいります。



消化器内科外来
上: 左から麻生、榎田
中: 左から村上、北里、橋
下: 左から清水、秋穂



内視鏡洗浄室



内視鏡(ESD)治療中



内視鏡室 上: 左から岩佐、佛坂、秋穂、榎田、向坂、糸永、田村、林 下: 左から宇都宮、桐原、吉田



検査室

Registered physician Information



登録医のご紹介

Clinic
1

医療法人北愛会 合馬内科クリニック

INFORMATION

所在地：小倉北区鍛冶町2丁目2-22 院長：合馬 紘
TEL：093-521-1053 診療科目：循環器内科、消化器内科、
FAX：093-541-3292 糖尿病内科



院長
合馬 紘



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00~18:00	○	○	○	○	○	○	×

※昼休みはありません。土曜日は12時まで。



アピールポイント

当院は106年に亘り現在の地で地域医療を担ってきましたが、現在、常勤内科医2名と非常勤専門医2名、管理栄養士などの体制で糖尿病、高血圧など生活習慣病のほか循環器、消化器疾患の質の高い診療に検査機器を整備して取り組んでいます。また、がんの早期診断、訪問診療、認知症診療等も積極的に進めています。そのほか、この20年介護サービス事業も広範囲に展開しています。

市立医療センターへの一言

市立医療センターとは40年近く、内科疾患全般にわたり、紹介、逆紹介などを通じて緊密な連携を継続しています。最近では増加する消化器がん、肺がん、乳がん等を早期診断後、治療していただき経過観察をしています。また、整形、泌尿器疾患、疼痛管理治療の症例も増加しています。医療センターのバックアップは当院にとって必須の存在となっています。

Clinic
2

重岡胃腸科外科医院

INFORMATION

所在地：福岡県豊前市大字三毛門773-1 院長：重岡 裕治
TEL：0979-82-1011 診療科目：胃腸科・外科・肛門科



院長
重岡 裕治



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	○	○	○	○	×
13:30~18:00	○	○	○	○	○	×	×

※土曜日は12時30分まで。毎月第1土曜日は休診。



アピールポイント

胃、大腸内視鏡、超音波検査を施行し、消化器がんを早期に診断することを主な生業としつつ、高血圧、脂質異常症、糖尿病といった生活習慣病および睡眠時無呼吸症の治療、加えて乳がん健診、骨粗鬆症の治療、各種ワクチンの接種と幅広く地域医療に貢献しております。また、近年稀少となりました有床診療所である利点を生かし、積極的に内視鏡的大腸ポリープ切除や腰椎麻酔下痔核根治手術も行ってあります。

市立医療センターへの一言

当院にて診断した消化器がん、乳がんの治療依頼(内視鏡的手術、外科手術)。診断に苦慮する症例を総合外来へ紹介し、随分助けていただいています。

医療連携室だより

平素より、当院の地域医療連携につきましては、深くご理解いただき誠に感謝申し上げます。
当院は、がん診療連携拠点病院として専従・専任のがん専門相談員を配置したがん相談支援センターを設置しております。その役割として、がん患者さんやご家族などの相談者に、信頼できる情報提供を行うことによって、その人らしい生活や治療選択ができるように支援すること、そのためには療養生活等にある心理社会的問題に対しても積極的に支援することです。

相談をお聞きするにあたり、「がん相談10の原則」をもとに、情緒的な面に寄り添いながら、ただやみくもに知り得たいというニーズだけに左右された情報提供ではなく、主治医からの病状説明を理解されているかを確認したうえで、その方に必要な情報提供を行うよう心掛けています。また主治医との関係性を良くし、強化する方向へ導くことも配慮しています。

がん治療は日々目覚ましく進歩している中で、ゲノム医療の進歩については注目を浴びている一つでもあり、がん対策推進基本計画の改定の中にも盛り込まれています。患者さんからも遺伝子検査の質問なども受けるようになりました。

さまざまな相談に対して、がん専門相談員の立場から必要な施設、職種に繋げていくことでがん患者さんが安心して自ら意思決定をした納得のいく治療を受けていただけるよう努力していきたいと思っております。

当院正面玄関すぐ脇にがん相談支援センターがあります。当院に受診されている方だけではなく、地域の方どなたでも直接来院相談または電話相談可能です。予約を取っていただく必要もありませんので、お一人で悩まずお気軽にご利用ください。

がん相談支援センター がん専門相談員(看護師) 堀 真由美



左から上垣、堀、小山田、石井

お気軽にご利用ください。



がん相談支援センター



がん冊子各種

医療連携を基本に業務内容の充実を図り、地域医療機関、患者さん、職員からも安心して頼りにされるよう取り組んでいます。

【がん相談支援センター】

TEL.093-541-1831(内線6843) <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/head/nyuin.html>